

「大学共同利用機関の検証」 へのコメント

神戸大学 先端融合研究環長
藏重 久弥

大学共同利用機関として備えるべき要件について

備えるべき要件としては、上記の観点が重要だと考える。

◆ 我が国の**学術研究の中核的システム**

- 大学共同利用機関が、我が国および国際的にみても当該研究分野において、学術研究拠点として機能

◆ **大学における学術研究の発展**に資するための共同利用の研究所

◆ 大規模な施設・設備等を全国の**大学の研究者に提供**する

- 当該機関の研究が優れているだけでなく、その施設・設備、人材、知識を前項の大学等の他研究機関と共有することで、我が国の先端研究の発展に寄与
- 関連分野の共同利用・共同研究拠点との協力・協調によって、それぞれの機関での研究活動を発展させ、ひいては大学における研究を強化・活性化できる

検証の進め方について

- 自己検証:「検証結果報告書」(仮称)の作成

- 評価の指標への(主体的な)意味付けが重要

- 研究分野の特徴・特色
- 研究所の強味・重点領域と制約

- ✓ 観点・指標で重要と思われるものについてピックアップ

- 外部検証:「組織及び業務全般の見直しについて」の通知

大学共同利用機関として求められる役割を担うことが可能か、再編・統合等を含めその在り方を明らかにするものであり、**相互の優劣を比較するものではない。**

- 優劣を比較するものではないが、共同利用・共同研究拠点との関係は重要

運営面 : 当該機関の長の諮問に応じる会議体

- 組織

- 諮問の対象の明確化

- 研究方針策定: 中期目標・計画

- 設備整備計画

- 人事方針

- 機関内各分野の運営との関係

- 委員構成

- 外部委員の位置づけと選出方法

- 有識者 or 研究者コミュニティ代表

- ✓ 上記に関して、情報公開・透明性が確保されていることが重要

- 運営方針の内容とその理由(意図)を共同利用者、コミュニティに共有

中核拠点性

- 研究活動: 中核的研究施設、高い成果
 - 論文数、国際共著論文の数・割合、TOP10 %論文の数・割合
 - “相互の優劣を比較するものではない”としているときに数字が持つ意味はあるのか？年次推移なら活動の指標となると思うが
 - 物理・化学分野では共同研究は当然だと思うが、指標で「当該機関に属さない関連研究者」の活動を分ける意味はあるのか？
 - 国際共同研究、国際研究プロジェクト
 - ✓ 国際性のパートで詳述
- 共同利用・共同研究の実施状況
 - 共同研究者の受け入れ態勢と数(できれば年次推移)はもちろんだが、課題の公募方法と審査体制の公開性・透明性が重要

中核拠点性

- 研究者コミュニティ

- 機関の目的である研究分野のコミュニティだけでなく、
周辺分野のコミュニティとの関係（意見聴取など）
及び学際研究・融合研究分野コミュニティへの働きかけが重要
- コミュニティを通じた共同利用・共同研究者の広がりも大事
 - 所属：国内大学、他研究機関、民間企業、国外研究機関
 - 職階：教員、研究員、学生

- 研究活動における不正行為

- 機関所属の研究者・職員だけでなく、共同利用者への周知・教育も大事

国際性

- 国際的に中核的な研究施設
 - 共同研究、プロジェクト、シンポジウム等の開催
 - ▶ 年次推移や海外の機関との比較が活動の指標となる
 - ▶ 上記指標だけでなく海外研究施設への協力も重要
 - 当該機関施設の利用・貸与
 - 共同研究を通じた海外機関での研究への参加
- 研究方針策定への海外研究者の参加
 - ▶ 国際的なプレゼンスを確保するためには重要
- 海外研究者の受入体制の整備
 - ▶ 事務体制(英語による職務遂行、生活支援、VISA申請補助等)は、大学では難しく、大学共同利用機関の機能として非常に重要

研究資源

- 施設、設備の水準・利用状況
 - 利用状況だけでなく、大学・他研究機関との共同運用・整備の状況も、共同利用機関の機能として非常に重要
- 共同利用・共同研究支援体制の整備状況
 - 運転・整備資金の確保が最も大事
 - 研究支援業務にあたる専任職員（技術職、事務職）の充足
 - 施設 運用・整備
 - 人材の多様性・流動性
 - 海外研究者の受入体制

新分野の創出

- 学際的・融合的領域研究の推進
 - 研究内容アドバイスや施設・装置利用支援等の研究支援が重要
 - 共同利用・共同研究課題の公募審査体制にも配慮が必要
- 異分野の融合と新分野の創出
 - 他分野の大学研究者、研究機関等との連携が必要
 - シンポジウム等の開催
 - アドバイザリー・ボードの活用

人材育成

- 後継者育成：大学院生教育・キャリアパスの形成
 - 総研大及び連携大学院の教育プログラムだけでなく、特別共同利用研究員や共同利用の大学院生の教育において、大学教員との連携が重要な視点
 - クロスアポイント等、人材交流
- 若手研究者育成
 - 若手だけでなく中堅研究者も含めた人材の流動性・多様性が重要

社会との関わり

- 研究内容・成果の情報発信
 - 科学の観点からは“サイエンス”思考の普及も重要
 - 論理的思考・実証
 - 技術の観点からはイノベーションのシーズとして産業界へ貢献
 - 共同研究
 - 技術トランスファー
 - 施設・設備の利用促進

大学共同利用機関に対する今後の期待

- 大学では維持管理できない大規模な施設・設備等を運用することで、大型研究プロジェクトの推進、大規模な共同研究の核となり、研究コミュニティの研究活動の拡充、発展、推進に今後も寄与してほしい
- 全国の研究者からの挑戦的な研究課題のアイデアを実行する場を与えることで、新しい学術領域や革新的な研究・技術の開拓を担ってほしい
- 当該及び関連分野の共同利用・共同研究拠点との情報交換を密にし、それぞれの特徴・強みを研究者コミュニティに伝えてほしい
 - 差別化・統合・再編の議論も含めて